

情 報 公 開 文 書

研究の名称	強度近視眼の黄斑円孔に対する硝子体手術成績についての後ろ向き観察研究
整理番号	
研究機関の名称	富山大学附属病院
研究責任者 (所属・氏名)	富山大学附属病院 眼科学 教授 林篤志
研究の概要	<p>【研究対象者】 2013年1月1日から2028年6月30日までの間に強度近視眼の黄斑円孔に対し富山大学附属病院で硝子体手術を施行された患者様のうち、1か月以上経過観察可能であった患者様。</p> <p>【研究の目的・意義】 強度近視では眼球が前後方向に伸びる際に、伸びきれなくなった網膜に孔が開き、黄斑円孔が生じることがあります。強度近視眼の黄斑円孔に対する硝子体手術は難易度が高く、非強度近視眼と比べて円孔閉鎖率が不良であることが知られています。本研究では、富山大学附属病院で硝子体手術を施行された強度近視眼の黄斑円孔の患者様の、手術方法および手術後の経過を検討し、今後の課題を明らかにすることが目的です。さらに将来的には手術方法の改善や工夫、新しい術式の考案を目指しています。</p> <p>【研究の方法】 患者さんの年齢、性別、発症から手術までの推定期間、術前視力、眼軸長、球面度数、黄斑円孔径、術後視力、円孔閉鎖の有無、術後合併症の有無について、電子カルテ情報および眼科外来に設置されている検査機械に保存されている画像を取得し検討します。</p> <p>【研究期間】 実施許可日 ~ 2028年6月30日</p> <p>【研究結果の公表の方法】 学会および医学雑誌で発表します。</p>
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 (他機関への提供の有無)	年齢、性別、発症から手術までの推定期間、術前視力、眼軸長、球面度数、黄斑円孔径、術後視力、円孔閉鎖の有無、術後合併症の有無について、統計学的処理を行い検討します。(他機関へは提供しません。)
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	富山大学附属病院、病院長、林篤志
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者(研究主機関における研究責任者氏名)	富山大学附属病院、眼科学、教授、林篤志
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。

電話 076-434-7363

E-mail ueda@med.u-toyama.ac.jp

担当者所属・氏名 眼科学、助教、コンサルボ上田朋子